



2023年12月期 第3四半期決算説明会資料

株式会社オプトラ
2023年11月14日



I

2023年12月期第3四半期実績

II

トピックス



I

2023年12月期第3四半期実績

- **売上・営業利益共に好調に推移。**
新型装置売上がほぼ計画通り進んでいることに加え、為替のプラス影響もあって、粗利率は年初見込みより高水準で進捗。
- **経常利益段階では、ヘッジ目的の為替予約の評価損により減益。**
- **新たな開発分野への研究開発活動を活発に進め、第2四半期に続き第3四半期においても今後の中長期成長分野と目する新エネルギー領域で、成長シナリオ通り新たな受注を獲得。**
- **第3四半期のスマートフォン受注は世界的市況を反映した結果となったが、ハイエンド向け高機能化需要は強く、中華系を含め足元の需要に回復の兆しがみられる。**

2023年12月期第3四半期累計実績のポイント



【売上高】 289億円(前年同期比16.7%増) 新型装置比率47.8%

- スマートフォン:カメラ高機能化を支えるALD装置販売増加
- IoT:自動車分野、AR/VR分野等、幅広く販売

【営業利益】 85億円(前年同期比37.2%増)

- 利益率の高いALD装置が寄与

【当期純利益】 40億円(前年同期比30.0%減)

- ヘッジ目的の為替予約評価損28億円計上

【受注高】 199億円(前年同期比56.5%減)

- スマートフォン:タッチパネルやカメラモジュール向け多数受注
高機能化ニーズは強いものの、受注ずれ込み
- IoT:自動車分野ダッシュボード、車載カメラやヘッドアップディスプレイ向け受注
- 新エネルギー分野向け装置及びエッチング装置受注獲得

業績ハイライト



(単位:億円)

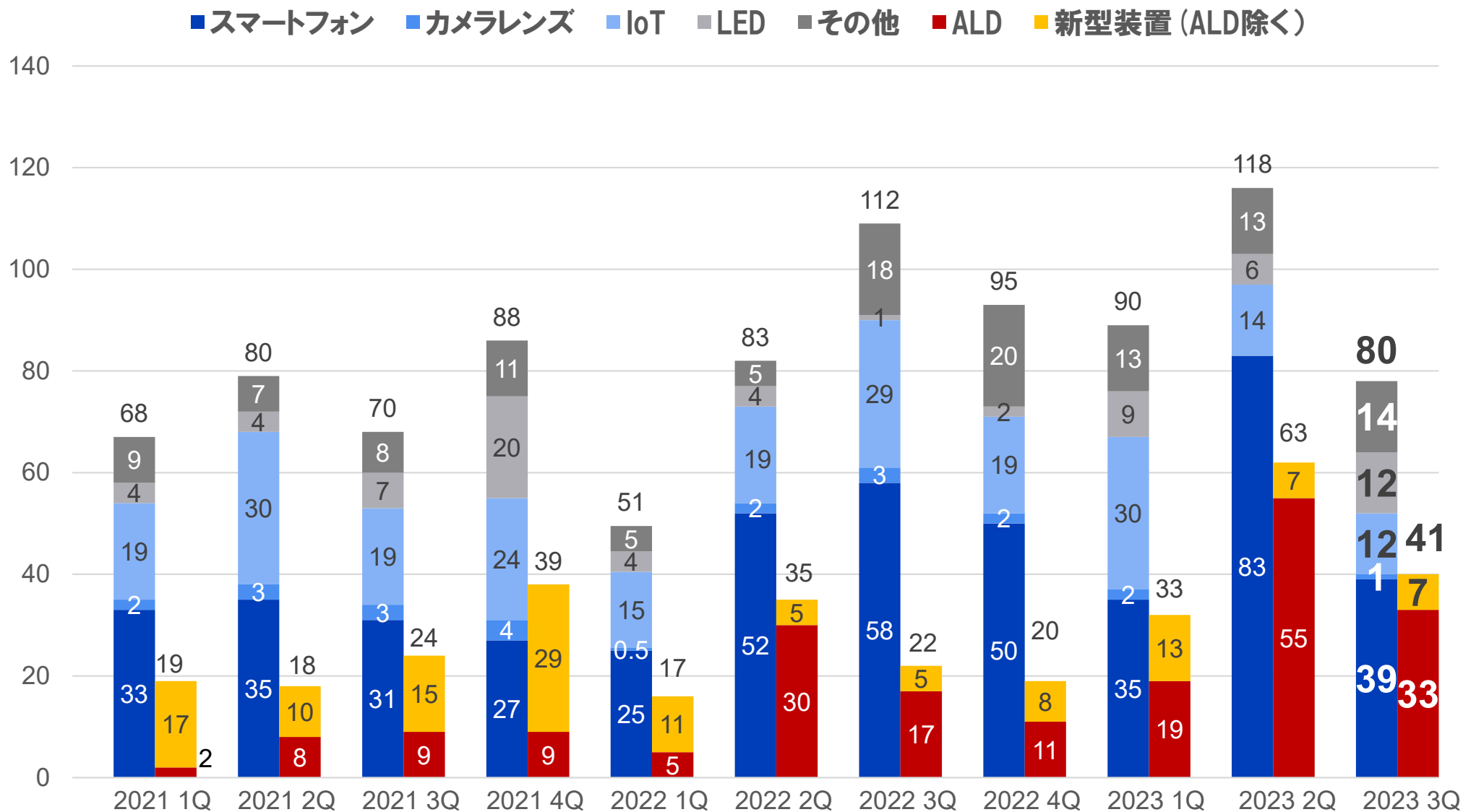
	2022年12月期 第3四半期累計実績	2023年12月期 第3四半期累計実績	前年同期 増減率	2023年12月期 業績予想
売上高	247	289	116.7%	355
売上総利益	109	148	135.7%	—
	(44.1%)	(51.3%)	—	—
営業利益	62	85	137.2%	86
	(25.2%)	(29.6%)	—	(24.2%)
経常利益	77	53	68.9%	86
	(31.2%)	(18.4%)	—	(24.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	58	40	70.0%	62
	(23.6%)	(14.2%)	—	(17.5%)
研究開発費	21	31	144.8%	34
	(8.8%)	(10.9%)	—	(9.6%)
設備投資額	51	27	53.0%	56
受注高	458	199	43.5%	—
受注残高	492	279	56.8%	—

(注) カッコ内%は売上高に占める割合

分野別売上高四半期推移

- ALD装置を中心にスマートフォン分野好調
- 新型装置比率51.8%、2Qに続き高水準を実現
- 自動車、LED向け堅調

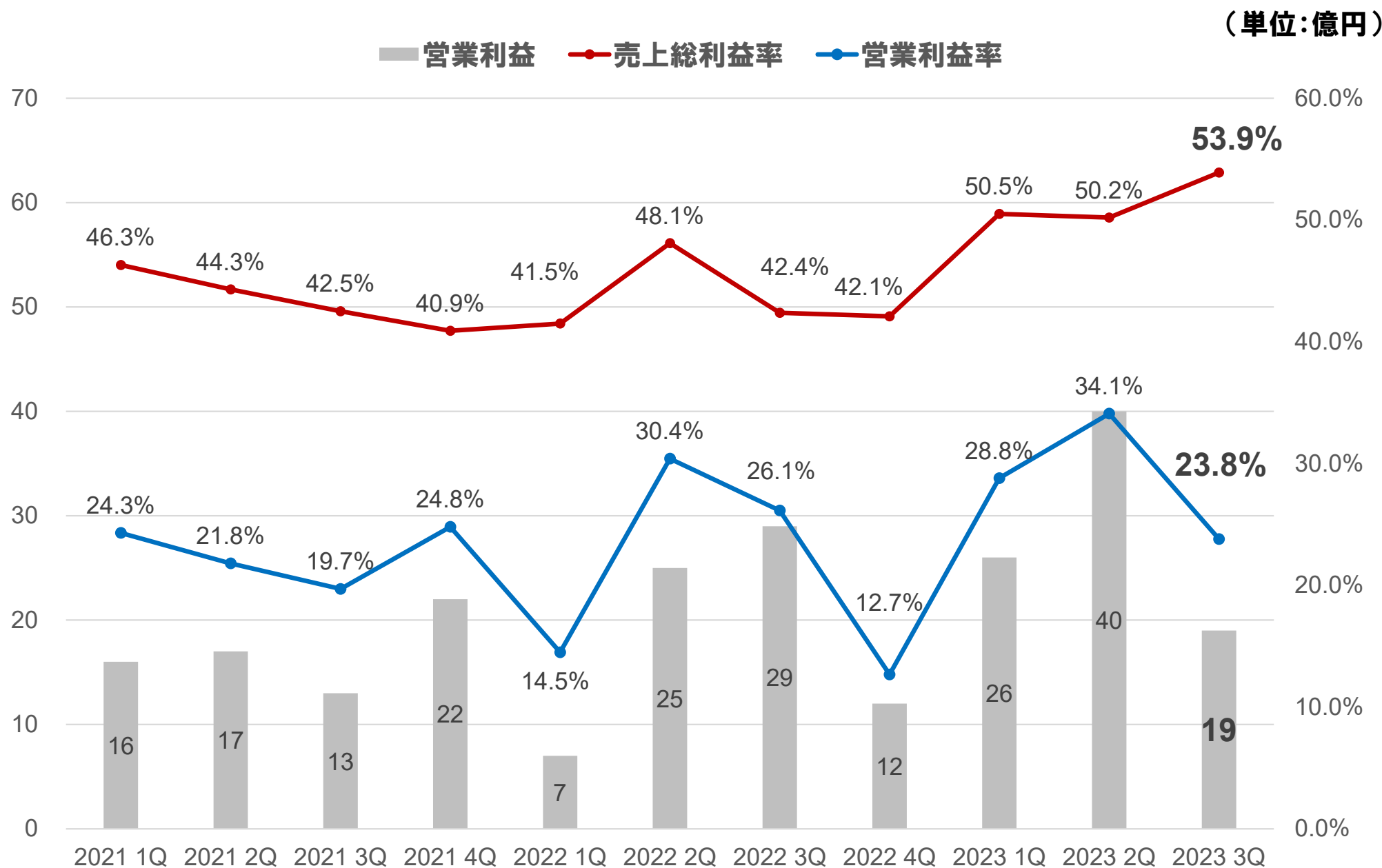
(単位:億円)



営業利益・売上総利益率・営業利益率四半期推移

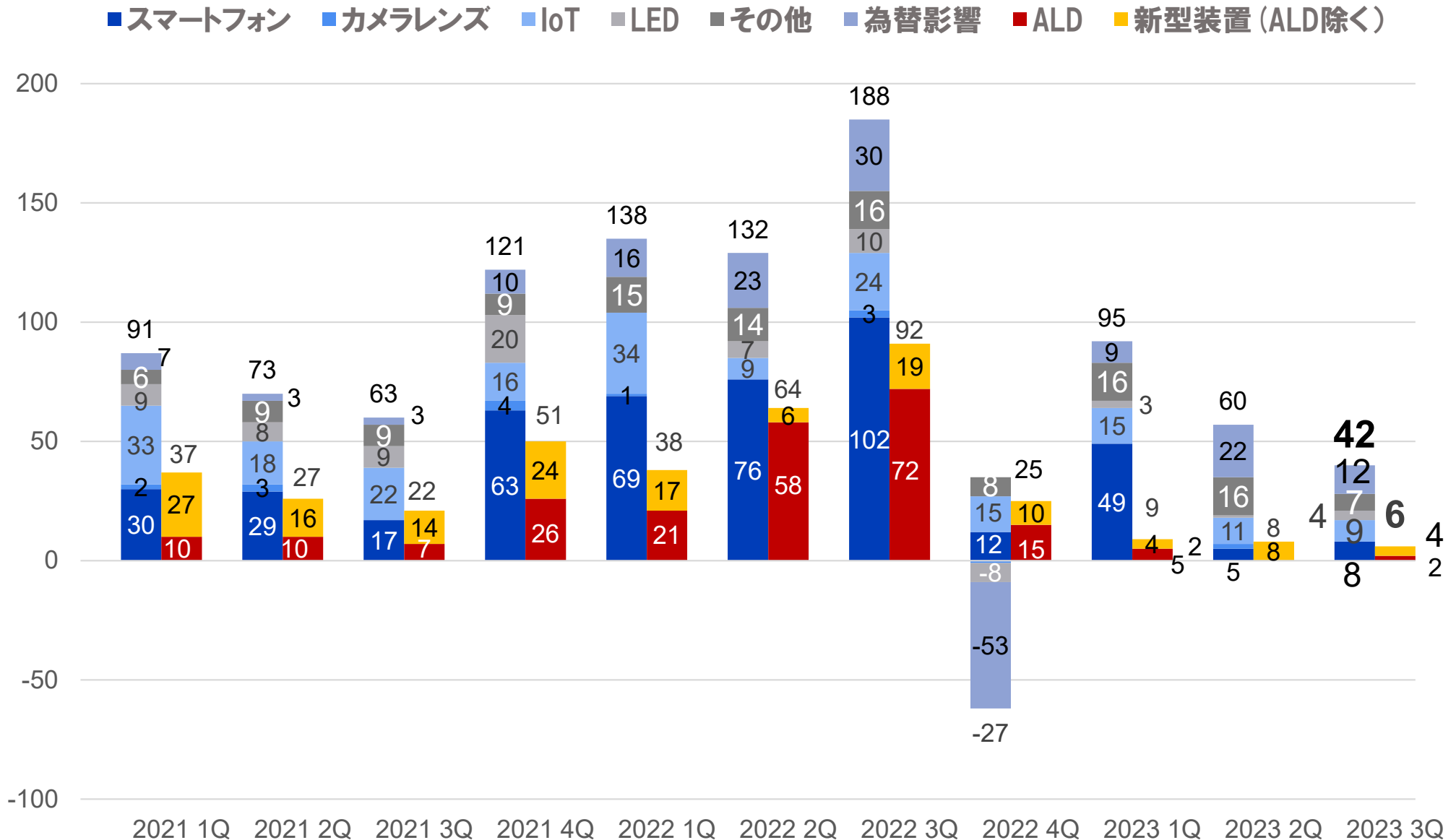


- 新型装置比率上昇に伴い、粗利率50%超を実現



分野別受注高四半期推移

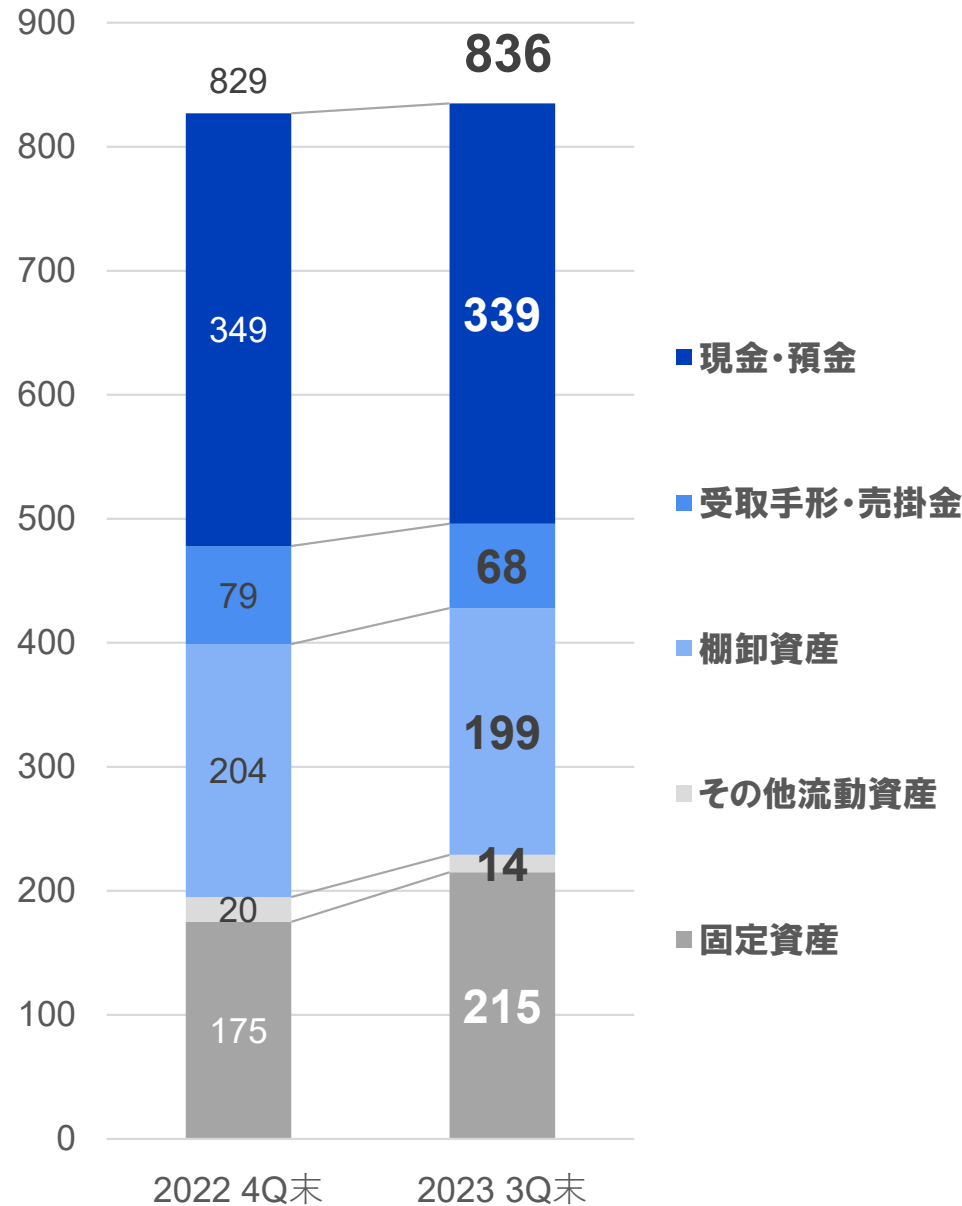
- スマートフォンの高機能化ニーズは引き続き強いものの、受注時期はずれ込み
 - IoTは、車載カメラ・ディスプレイ向けが堅調
 - 新エネルギー分野向け装置受注獲得
- (単位:億円)



連結貸借対照表

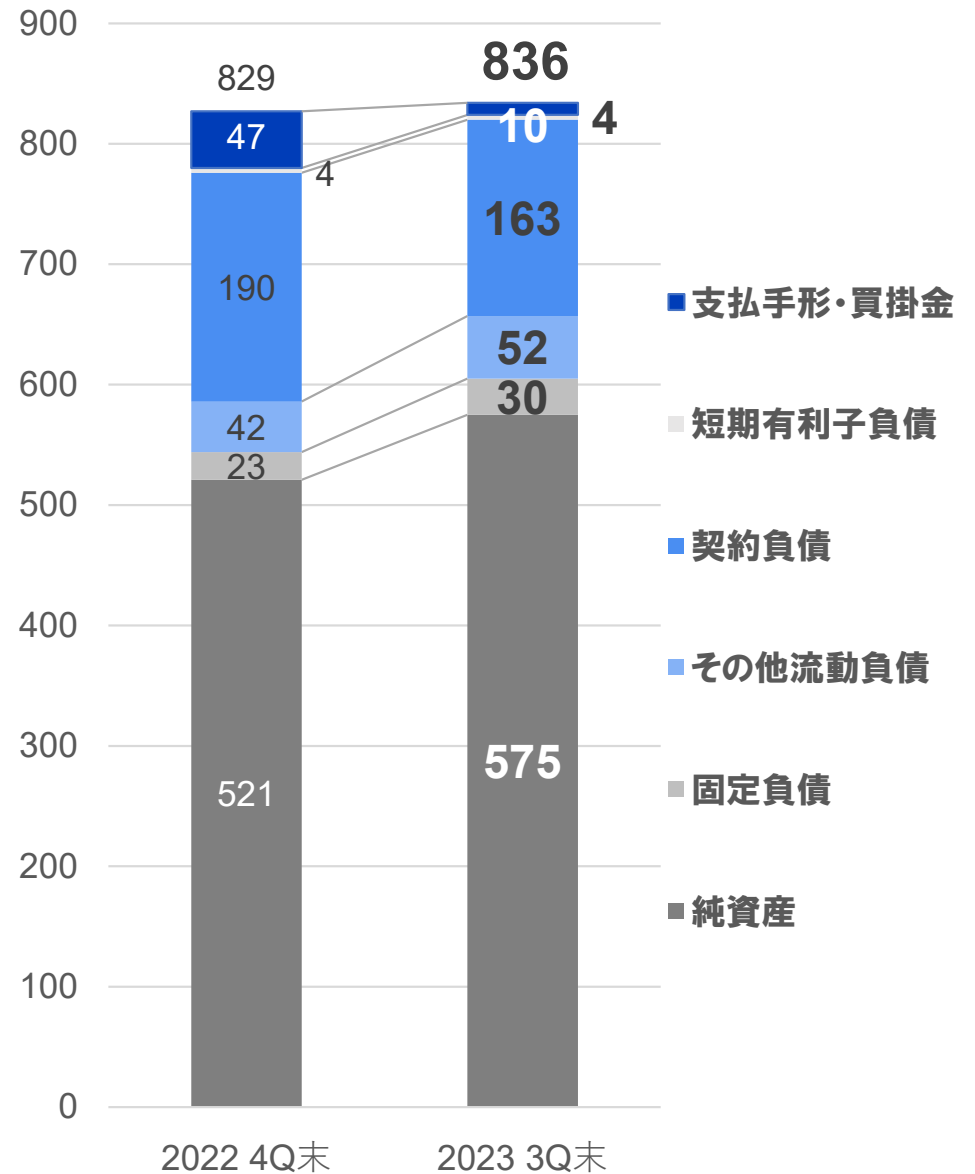


資産



負債・純資産

(単位:億円)





II

トピックス

光学

■光学部品

- ・装飾膜・レンズ・ミラー
- ・光学フィルタ



■Smart Phone

- ・カメラモジュール・筐体
- ・ディスプレイ・光学センサ

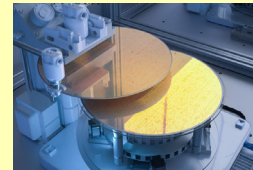


■自動車

- ・インストルメントパネル
- ・ADAS・ディスプレイ・センサ

半導体光学融合

■イメージセンサ



■AR/VR Device

- ・スマートグラス
- ・ヘッドマウントディスプレイ



■光電子

- ・Mini LED
- ・Micro LED
- ・LD/VCSEL

電子デバイス

■新エネルギー

- ・太陽電池
- ・リチウム電池
- ・パワーデバイス

■通信 Device

- ・BAW/SAW
- ・RF Device



■光通信 Device

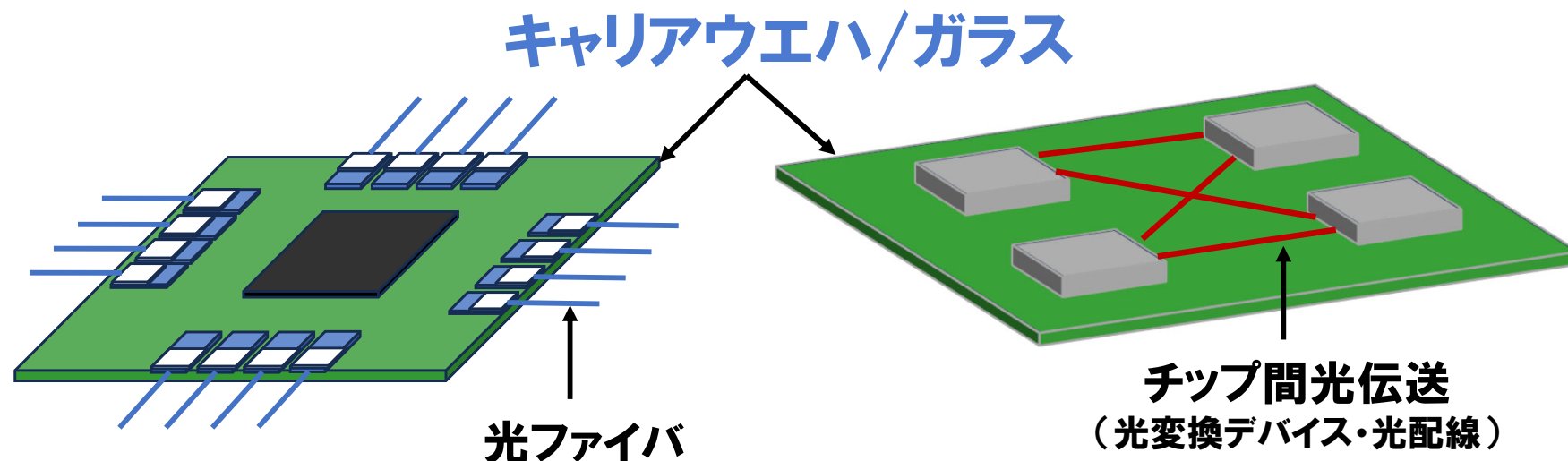
■MEMS Device

- ・マイクロミラー
- ・ジャイロスコープ
- ・加速度センサ

光学・半導体光学融合・電子デバイス領域を事業の柱に、
2025年売上高500億円をめざす

領域	分野	市場(技術)動向	受注動向
光学	スマートフォン	<ul style="list-style-type: none"> ハイエンド機種での機能向上需要は強い カメラモジュール:大判化、新たなカメラ機能の搭載比率が上昇傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 新技術需要は回復の兆し 硬質膜需要も不変(4Q以降へずれ込み)
	自動車	<ul style="list-style-type: none"> カメラ:安全装置・カメラ搭載率上昇 ディスプレイ:タッチパネル化 	<ul style="list-style-type: none"> ディスプレイ需要回復
	カメラ	<ul style="list-style-type: none"> 監視カメラ:広角ニーズあり 	<ul style="list-style-type: none"> ALD装置需要増加
半導体 光学 融合	AR/VR	<ul style="list-style-type: none"> ディスプレイ:Micro OLED採用増加傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ウェーブガイド、マイクロディスプレイ需要にALD・エッチング装置受注拡大見込
	光電子(センサ)	<ul style="list-style-type: none"> 近赤外線センサー・LiDAR・ミリ波レーダー:自動運転化による需要増、3Dセンサ技術多様化 	<ul style="list-style-type: none"> 引き合い増加
	光通信デバイス	<ul style="list-style-type: none"> 電気信号から光信号へ(光電融合技術)3Dパッケージ・チップレット 	<ul style="list-style-type: none"> 3Dパッケージ需要期待中長期的に市場拡大が期待できる すでに受注実績あり
電子 デバイス	新エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 太陽電池、リチウム電池需要あり 	<ul style="list-style-type: none"> 中長期的に市場拡大が期待できる すでに受注実績あり
	通信デバイス	<ul style="list-style-type: none"> RFデバイス:BAW/SAWにおける成膜・エッチングプロセスに参入 	

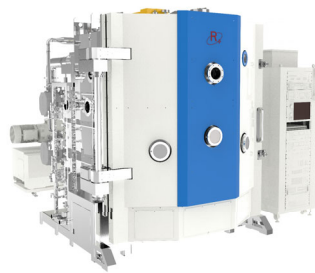
光電融合技術により、チップ間光伝送デバイスへ



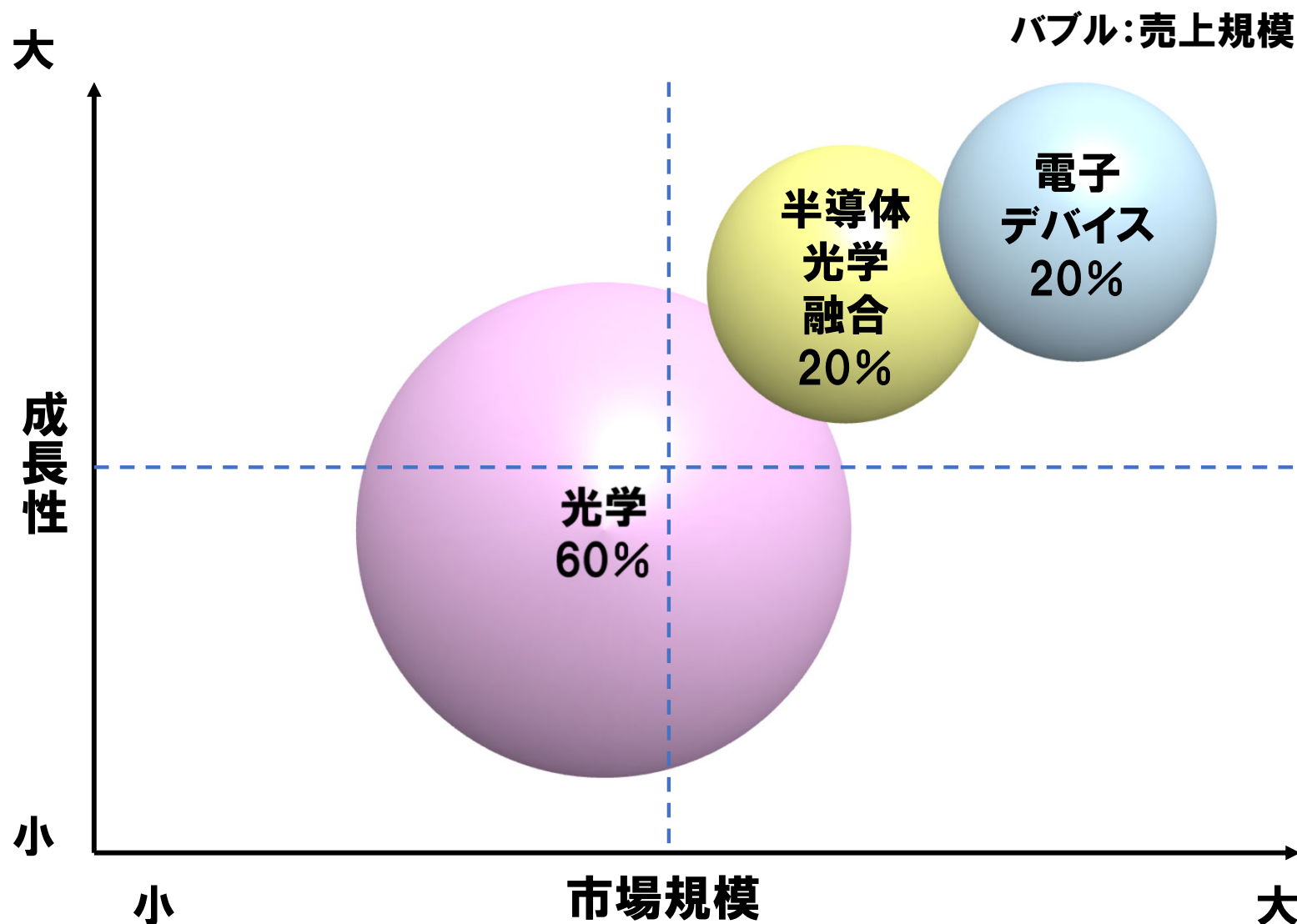
第2世代

第3世代

第3.5世代



創業以来、培った光通信技術を最先端光電融合技術に貢献



光学領域へ継続的に経営資源を配分するとともに、成長期待の高い電子デバイス・半導体光学融合領域に経営資源を注力、光学に次ぐ事業規模へ成長を加速させる

当資料に記載された内容は、2023年11月13日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【問合せ先】

E-mail: ir-info@optorun.co.jp TEL: 049-299-8199